

## 社会資本整備の政策評価

### - 都道府県データによる生産力効果の計測 -

#### 【要 旨】

1. 財政状況が急速に悪化していく中、公共投資に代表される社会資本整備に対する批判が高まりを見せている。日本の GDP に占める公共投資のウェイトが高い理由として、「社会資本整備が立ち後れているから」という主張は根強いものがある。仮にその主張が正しければ、公共投資の対 GDP 比率だけを見てフローの公共投資が過剰であると結論づけることはできない。そのため問題は、公共投資の蓄積としての社会資本ストックが社会的に見て望ましい水準に達しているかどうかという点に帰着する。本稿は、このような問題意識に基づき、都道府県データを用いて社会資本ストックの生産力効果を計測し、これまでの社会資本整備のあり方を評価・検証することを目的としている。
2. 分析の結果、社会資本ストックは生産を増加させる方向で作用してきたとはいうものの、その効果は民間資本ストックと比べて著しく低いことがわかった。また、地域別の限界生産力を見たとき、地方圏の限界生産力は大都市圏のそれを一貫して下回ってきたことが確認された。加えて近年では、公共投資を通じた均等発展を図るという基準で正当化し得ないほど、地方圏に公共投資が割り当てられている可能性が示唆された。本稿の分析は地域別に焦点を当てたものであり目的別に踏み込んだものではないが、今後を見通した場合、公共投資全体を見直していく中で限界生産力の高い大都市圏の社会資本整備を進めていくことは、経済効率の面から見ても有効な選択肢の一つであると考えられる。

*Key Words* : 社会資本ストック、生産力効果